

携帯電話で、図書館蔵書検索 OK!

図書館情報システムにより、パソコンでの図書館蔵書の検索が可能でしたが、今年の夏休み期間中のシステム更新で、携帯電話からも本学図書館蔵書検索が可能となりました。図書と雑誌の最新情報もチェックできます。アドレスは下記のとおりです。是非、活用ください。

i-mode

<http://opac.lib.chikushi-u.ac.jp/i/index.html>

Vodafone

<http://opac.lib.chikushi-u.ac.jp/j/index.html>

EZ-Web

<http://opac.lib.chikushi-u.ac.jp/e/index.html>

■動作保障機種

- iモード
全機種
- Vodafone live!
全機種
- EZweb
Wシリーズ (WOLK除く)・INFOBAR
A5000 / C5000 / A3000 / C3000 / A1400 / A1300 / A1100シリーズ

上記以外の機種は一部文字化けして表示される可能性があります。新しい機種であれば特に問題ないと思われませんが、文字化けした場合、回避の方法が今のところありませんのでご了承ください。

図書館から学生の皆さん個人への連絡は、まず、学内のメールアドレスにいたします。自宅のパソコン・携帯電話に **Active! Mail** を設定してください。



LIBRARY NEWS

CHIKUSHI JOGAKUEN UNIVERSITY & JUNIOR COLLEGE LIBRARY

「読書感想文コンクール」審査結果について

図書館長 小木野 一

学生の図書館利用を促進することを目的として、本学最初の「読書感想文コンクール」を行って、募集をいたしました。7月末の締め切り日までに23編の応募がありました。応募を受けて、各学科から出られている図書委員の先生方に審査委員をお願いして、応募作品を読んでいただきました。審査は感銘を受けたもの上位10編に順位をつけて提出していただき、それにもとづいて審査委員会を開いて、検討いたしました。応募いただいた感想文はどれも大変良く書かれていて、順位をつけるために数回読み直さなくてはなりませんでしたが、学生の皆さんの日本語の表現力に改めて印象深く感じ、コンクールを行った意義があったと思います。

審査の結果、「最優秀」に選ばれた西田さやかさんの感想文は多くの先生方の圧倒的な評価を得ました。西田さんの作品はこの「ライブラリーニュース」に掲載いたしますので読んでください。全体の審査結果は以下の通りです。

最優秀賞	西田 さやか	(日本語・日本文学科1年)
優秀賞	山口 沙矢佳	(日本語・日本文学科3年)
優秀賞	田口 彩花	(日本語・日本文学科4年)
佳作	山下 友紀	(日本語・日本文学科2年)
佳作	三浦 香菜	(日本語・日本文学科1年)
佳作	持田 菜矢	(人間福祉学科4年)
佳作	小野 麻美子	(人間福祉学科3年)

順位をつけて審査することにいたしましたので、全員入選にはなりませんが、応募された学生の皆さんはみんな十分な日本語表現力をもっていることに自信を持ってください。応募くださった学生、夏休みにもかかわらず作品を読んでくださった先生方およびこのコンクールのために協力いただいた皆さんに感謝いたします。

これを機に学生の皆さんが図書館を利用して、読書の楽しみや意義を知っていただき、感性豊かな学生として育っていくことを期待いたします。

発行 筑紫女学園大学・短期大学部附属図書館

〒818-0192 福岡県太宰府市石坂2丁目12-1

TEL 092(925)9910 FAX 092(925)3318

印刷 久野印刷株式会社

『火垂るの墓』を読んで

日本語・日本文学科1年 西田さやか

読む回数を重ねれば重ねるほど、この作品に対する新たな感情がわきあがることを、私は不思議に思う。それは、この作品の文章に独特の癖があるからだろうか。句点が少なく、とにかく一文一文に多くの意味合いが含まれている面白さ、パノラマのように次々と広がっていく描写は、三十年余りの歳月を経ても新鮮に感じられる。

私がこの作品を初めて読んだ時、目をそむけたくなるシーンばかりが心に思いがたまりを残し、結局読み終わった後もそのショックばかりを引きずっていた。しかし幾度と読むうち、次第にその悲惨な物語の中に隠れた、暖かな世界に気づいていった。それは小さなドロップの缶であったり、静かな夜、蚊帳に広がる無数の蛍の光に表されている。どれも、極限状態まで追い込まれた浮浪児の兄妹にとっては、頼りない心の支えであったかもしれない。しかしこの兄妹の存在自体も、また、はかない小さなものであるということが象徴されているのだろう。その小さな心の支えを大切に生きていた兄妹を思うと、今でも愛しい気持ちでいっぱいになる。決して幸せな暮らしとはいえない、遠い親戚の家を出て洞穴に移り住み、妹の節子の死まで過ごした数日は、兄妹にとって人生最後の幸福だったに違いない。そして「その時」は、蛍のはかない光たちに守られていたのだろう。

戦争は世界中で絶えることなく今日まで続いてきた。海を隔てた遠い国では、今この時も命を失う人がいる。果たしてその亡くなった人の命は、かけがえのない、ひとつの重い命として考えられているだろうか。戦争の恐ろしさのひとつに、「命」を感じる感覚が麻痺することがある。国をズームアップしてはじめて、『火垂るの墓』の世界がショックだと感じられたり、命の重みについて考えようとするなら、人間とはあまりにも愚かだ。しかし、私も実際これまで遠い国の戦争など実感の湧かないひとつのニュースだと捉えていた。それよりも学校や友達のこと、宿題の期限の方が身近に重要なことだと思っていた。だが、戦争の中ではそのような事が塵のように小さくなり、ただ「生きる」・「殺す」ことこそが重要になる。それは人間のあるべき姿ではない、と私は思う。

私はこの作品と出会って、二度とない人生を生きている一人一人の命は、戦争などで容易に失うべきではないと痛感した。そして今も失われる人間の人生と命の重みを切々と感じる。きれい事ではなく、戦争のない世界が始まることを心から願う。

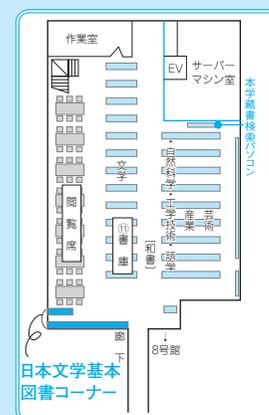
8号館図書館に2つの図書コーナー新設

今年の夏休み期間中に、これまで、アジア文化学科研究室、国文科研究室、日本語・日本文学科学生自習室、英語学科研究室に貸し出されていた図書が8号館図書館に返却されました。

7号館3階には、「日本文学基本図書コーナー」、7号館4階閲覧室に「空西文庫」を新設しました。学生の皆さんの更なる利用に応えようと、何れも閲覧席のすぐそばに設置されています。

一方、アジア文化学科研究室に貸し出されていた図書約2,000冊については、一般の図書と同様それぞれの主題の場所に配架しています。

〈日本文学基本図書コーナー〉…7号館3階閲覧室

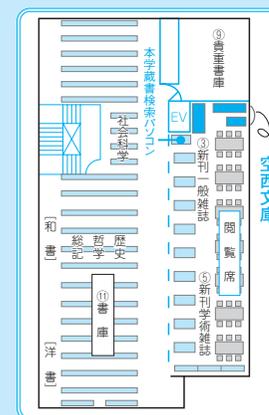


3F

3号館3階、国文科研究室図書約1,350冊、6号館5階、日本語・日本文学科学生自習室約480冊の図書が、8号館図書館の7号館3階閲覧室に「日本文学基本図書コーナー」として新たに設置されました。

日本文学と日本文学に関連する分野の基礎的な資料を揃えています。(資料は禁帯出です。館内での利用をお願いします。)

〈空西文庫〉…7号館4階閲覧室



4F

5号館4階、英語学科研究室にあった「空西文庫」約2,140冊を8号館図書館の7号館4階閲覧室に移設しました。

空西文庫は、英語学者故空西哲郎先生の旧蔵書を平成元年に学園が譲り受けたもので、特に英語の文法に関する文献が充実しています。(資料は禁帯出です。館内での利用をお願いします。)

図書館からのお知らせ

8月以前にアジア文化学科研究室の図書を借りておられる学生・教職員の皆さんは、図書館に一度返却の上、貸出の手続きをとっていただくようお願いいたします。